令和７年度　　電気電子情報系の実施状況

テーマ	高専-技科大連携におけるグローバル技術者育成の将来像
実施期間	令和 7 年 8 月 28 日（木）13 時 30 分～18 時 00 分、 18 時 30 分～20 時 30 分 令和 7 年 8 月 29 日（金）10 時 30 分～11 時 50 分 （以降は希望者のみ研究室見学）
実施場所	アオーレ長岡、ホテルニューオータニ長岡、長岡技術科学大学
参加者数	本学教員　36 人、高専教員　28 人、その他　7 人　　計 71 人
目的	産業や社会の課題が国境を越えて広がり、AI 技術の発展や国際・国内情勢の変動が急激に起こる中で、技術者に求められることが変わっていく時代のグローバル技術者育成を論じる。対面での交流を通じて、高専の現状を把握しつつ高専と本学の連携をさらに深化させ、ともに新たな時代を切り拓くための礎とする。
内容	[基調講演 1]　徳山高専の阿部校長から、これまで在籍された高専における国際交流の取り組みについて紹介があった。八戸高専と函館高専における国際交流の先駆的な取り組みでは、若年層でも国際交流による胆力と気付きが学生の成長につながったことが説明された。 [基調講演 2]　木更津高専の小澤先生から、高専における英語教育や英語力レベルの推移について説明があり、この十年で高専生の TOEIC スコアは有意に伸びていることが示された。一方、TOEIC は英語の 4 技能全てを測る試験ではないため、ライティングに関する技術英検や AI の活用法なども紹介された。 [基調講演 3]　本学の山下理事・副学長から、AI を適切に利用するために人間が果たすべき協働者・監督者・哲学者の役割について説明があった。AI の特性と限界を理解することの重要性と、新たな時代の人材育成に通用する「倫理資本主義」の考え方が紹介された。 [基調講演 4]　本学の佐々木徹学長補佐（国際連携担当）から、「大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業」にて採択された、「ものづくりと地域社会に変容をもらたすグローバル技学

	共修教育モデル構築と R&D 人材教育」について紹介があった。学生にとって大学内で国際交流できる環境を構築することで実効的に留学したことと等価となるような取り組みを行うことや、多様な世代・学生・属性の交流により 20 年後に活躍するエンジニアをどのように育成するかが説明された。 [パネルディスカッション]　グローバル技術者育成の将来像を論じるために、パネリストの高専教員 3 名および本学教員 3 名から話題提供があり、各高専での国際交流とその展開，本学の海外実務訓練の特徴、高専から本学に編入し成長した学生の特徴などが紹介された。海外環境および国際交流の盛んな環境に身を置くことで学生が適応し多様性を受け入れていくことなどが、パネルディスカッションを通じて共有された。実践的な環境を構築し、学生をサポートすることが必要であることが確認された。 [分科会]　エネルギー領域、電子・光領域，情報領域に分かれて、最新の研究・教育に関する取り組みを情報共有した。 以上の内容によって，新たな時代における多様性理解、英語力、数理・データサイエンス、専門性などの重要な要素が認識され、グローバル技術者を育成するために高専と本学が連携を深めるべき方向性が共有された。